

人
は「とらやま」と呼ぶ。
国境の島に棲むそのヤマネコを、



ツシマヤマネコ ネコ目 ネコ科 ベンガルヤマネコ属
Prionailurus bengalensis euptilurus

対馬だけに生息する野生のネコ。環境省が発表したレッドリストにおいては、「絶滅危惧 I A 類」とされ、最も絶滅のおそれが高い種の1つ。イエネコと同じくらいかまたは一回り大きく、胴長短足、耳のうしろに白い斑点があり、太くて長い尾をもつ。

国境の島、対馬に棲むヤマネコ

九州の北方、玄界灘に浮かぶ長崎県の離島「対馬」は、韓国までの最短距離が約 50km、条件が良ければ韓国の陸影を臨むことができます。この国境の島には、地元の方に「とらやま」と呼ばれている、野生動物が生息しています。胴長短足な体型に、全身の不明瞭な斑点模様、耳の後ろの白い斑点（虎耳状斑）などが特徴的な、小型のヤマネコ、「ツシマヤマネコ」です。

「ツシマヤマネコ」は、数万年前に訪れた氷河期に海面が沈降し、大陸と日本本土が陸続きとなった時に大陸から南下してきました。その後、気温の上昇とともに海面が上昇し、島（今の対馬）に隔離され、その環境変化に適応し、進化を遂げたと考えられています。鳥類やげっ歯類、両生・爬虫類など多種多様な動物を餌とし、対馬の生態系の頂点に君臨しています。そのため、それらの動物が生息する対馬の山や河川、里地里山などあらゆる環境を利用して生きています。

「ツシマヤマネコ」の現在の推定生息数は 100 頭ほどで、日本でも最も絶滅の恐れの高い種として、種の保存法により希少種に指定されています。

「ツシマヤマネコの日」制定

関係各機関により様々な保護施策が行われている中、今年度は、ツシマヤマネコ保護増殖連絡協議会（構成機関：環境省・林野庁・長崎県・対馬市）が、ツシマヤマネコの現状をより広く知っていただき、保護の機運を高めていくために、10月8日（とらやま）をツシマヤマネコの日に制定します。また「ツシマヤマネコの日」制定に合わせ、現在ツシマヤマネコを飼育展示している全国 10 か所の飼育施設で、10月から各園を巡るスタンプラリーが開催されます。動物園で実際のヤマネコを見て、現状を知り、遠く対馬にいるヤマネコに思いをはせてみてはいかがでしょうか。

<飼育 10 施設 *北から順>

- ・盛岡市動物公園（岩手県）
- ・富山市ファミリーパーク（富山県）
- ・井の頭自然文化園（東京都）
- ・よこはま動物園ズーラシア（神奈川県）
- ・東山動物園（愛知県）
- ・京都市動物園（京都府）
- ・福岡市動物園（福岡県）
- ・対馬野生生物保護センター（長崎県）
- ・九十九島動植物園（長崎県）
- ・沖縄こどもの国（沖縄県）